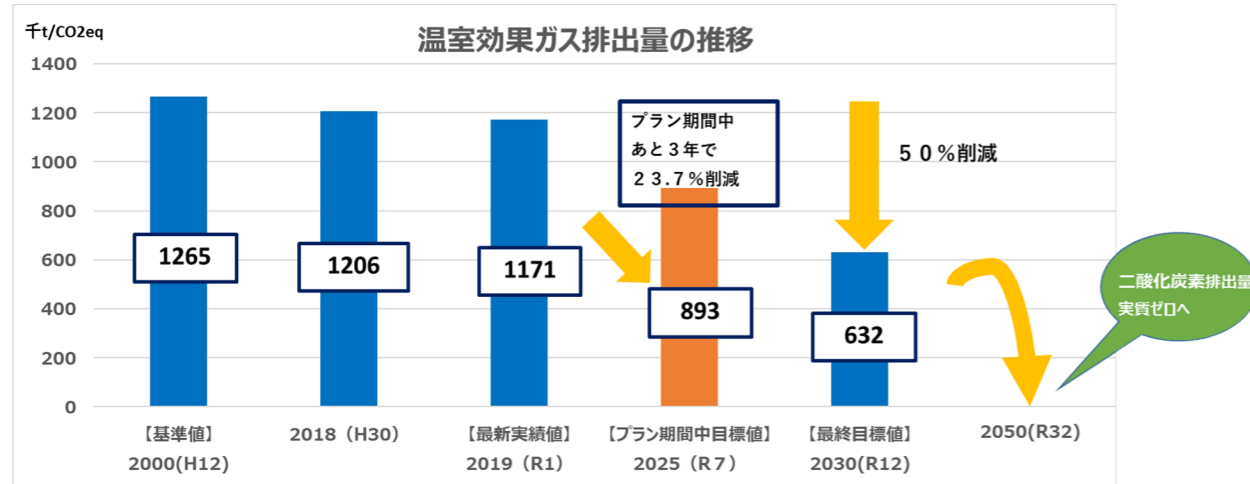


1. 脱炭素社会への転換

- (1) 2021年10月 すみだゼロカーボンシティ2050宣言
温室効果ガス排出量の削減目標
2030年度までに区域から排出される温室効果ガスを2000年度比で50%削減
2050年度までに実質100%削減を目指す
- (2) 2022年3月 第二次すみだ環境の共創プラン・中間改定
基本目標1＝墨田区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）
基本目標2＝墨田区地域気候変動適応計画

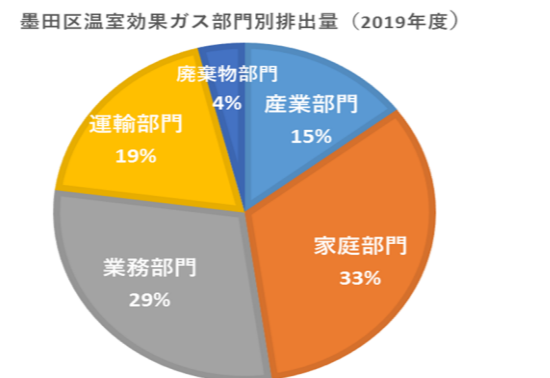
2. 区の現状・目標

- (1) 現状と目標
区内から排出される温室効果ガスは、2019年データによると、19年間でわずか7.4%減に留まる。
共創プラン計画期間中の2025年（=あと3年間）で、2019年度比で、23.7%減らす必要がある。



(2) 温室効果ガスの部門別排出量（2019年度実績）

- CO₂排出量を部門別でみると、民生部門（事業所・家庭）からが全体の約60%を占めている。
- 特に家庭からの排出量が一番多く、削減割合も停滞している。



(3) 家庭部門の温室効果ガス排出量の推移と削減目標

①家庭部門の温室効果ガス排出量の推移

	2000年 (平成12) 年度	2016年 (平成28) 年	2017年 (平成29) 年	2018年 (平成30) 年	2019年 (令和元) 年
家庭部門	274	373	384	365	354

②家庭部門の温室効果ガス排出量の削減目標

	2000年 (平成12) 年度 基準値	2030(令和12) 年度			目標値
		削減見込量 (対策なし)	削減見込量 (国・都連携)	削減見込量 (区独自)	
家庭部門	274	260	58	36	166

※1 都内エネルギー消費量は、2020年度には約27.3%減少（2000年度比）
一方、家庭部門は、世帯数増等の影響により唯一増加している部門。
2020年度実績は、コロナ禍による在宅時間の増加等により前年度に比べて大幅に増加している。
出典：都における最終エネルギー消費及び温室効果ガス排出量総合調査 2020速報値
※2 人口・世帯：短期的には増加傾向にあり、核家族化と単身世帯の増加が進行している。
土地利用：工場跡地が住宅となる一方、住宅密集地における空き家や空き地が増加している。

3. 課題

- (1) 家庭での脱炭素化が進まない、省エネ意識が向上されない。
- (2) 東京都全体のCO₂排出量の7割を占める建物関連の機能更新が進まない。
- (3) 再生可能エネルギーへの切り替えが進まない。
- (4) 資源活用（清掃に関する事業等）が、気候変動対策として位置付けされていない。
- (5) 脱炭素に向けた適切な情報が得にくい、効果が視覚化されにくい。

4. すみだ環境共創区民会議からの意見

- (1) 助成事業の対象設備・助成内容を検討する必要がある。→ 区民の負担軽減 省エネ意識の向上
- (2) 省エネ行動へのインセンティブを付与する必要がある。→ 行動変容の促進・継続性の確保
- (3) 食品ロス等の廃棄物削減対策を強化すべき。→ 行動変容の促進 意識づけ
- (4) 情報発信の方法を検討すべき。→ 子どもや高齢者等、行動様式に合わせた情報発信
HP内容の見直し わかりやすい事例の発信

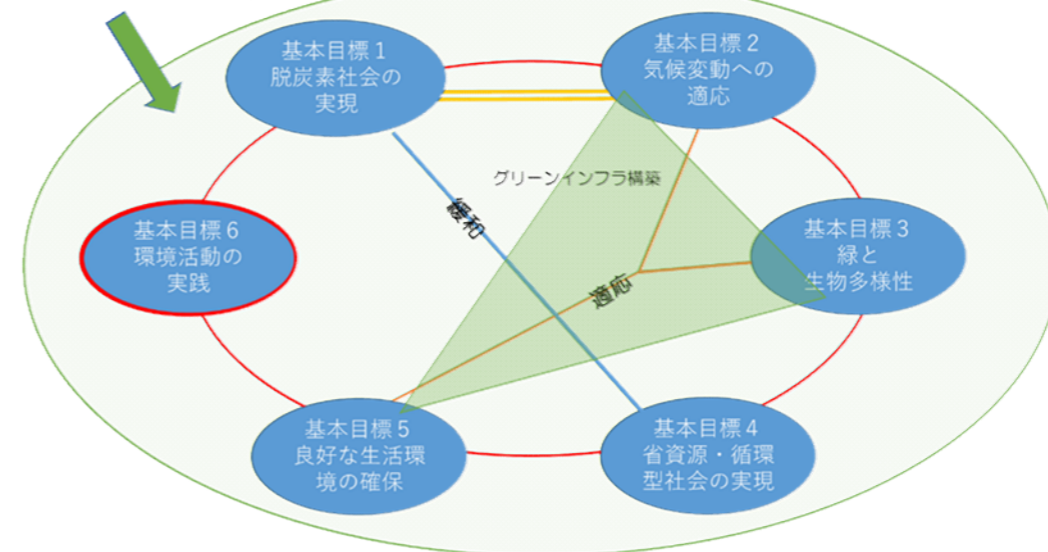
5. 環境審議会からの意見

- (1) ゼロカーボンシティに向けた取組をどのようにすればよいかわからない。→ 情報発信
- (2) スマートフォンなどで使用電力量が分かるような仕組みがあるとよい。→ 見える化
- (3) 節電がゼロカーボンシティに近づく一番の取組ではないか。
- (4) 区民が省エネに取り組んだ成果の見える化が必要。→ 見える化
- (5) 省エネ行動にインセンティブを紐づけることで、家計と地球にやさしいという啓発方法が有効。
→ 行動変容の促進

6. 脱炭素社会に向けた基本的な考え方と視点

- (1) 緩和策と適応策
温室効果ガスの排出量を抑制する「緩和策」に取り組むとともに、気候変動による被害を回避・軽減する「適応策」にも取り組む。
緩和策：気候変動による社会や自然への影響を回避するために、温室効果ガス排出を削減し、気候変動を極力抑制する。
例「エネルギー」の使用を減らす（省エネ行動）、再生可能エネルギーの利用
適応策：緩和策を最大限実現しても避けられない気候変動の影響に対し、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにする。
例 雨水利用、緑のカーテンや屋上緑化などの緑化の推進、熱中症予防 等
- (2) グリーンリカバリー
グリーンリカバリー：世界情勢やコロナにより生活の変化が余儀なくされるとき、その危機の後の対応は例えば化石燃料に頼るのではなく、将来の環境を見据え、元に戻らず取り組むべきこと。

グリーンリカバリーの視点



(3) モデルケース ※右表 家庭部門二酸化炭素削減 考えられる対策 参照

モデル①（単身） 年間平均二酸化炭素排出量1.68t/CO₂eq

- ① 家庭でできる節電対策
- ② 食品ロス削減
- ③ 再生可能エネルギー電力の契約
- ④ 省エネルギー機器の導入

モデル②（世帯） 年間平均二酸化炭素排出量 4.02tCO₂/eq

- ① 家庭でできる節電対策
- ② 食品ロスの削減
- ③ 再生可能エネルギー電力の契約
- ④ 省エネルギー機器の導入
- ⑤ 二重窓の設置
- ⑥ 太陽光発電設備の導入

易
↓
難
↓
難

7.取組方針

グリーンリカバリーの視点を踏まえ、第二次すみだ環境の共創プランの計画期間（～2025年度）を2030年以降の更なる温室効果ガス削減のための土台作りの期間と位置付ける

● 温室効果ガス排出削減が進まない「家庭部門」へのアプローチを強化する

▶ 国及び都との役割分担を踏まえ、連携を強化する

例) 国：2030年において、新築戸建住宅の6割に太陽光発電設備の設置を目指す
都：2030年までに再生可能エネルギーの利用割合を50%までに高める
2025年4月より太陽光発電設備の設置を新築建物に義務付ける

▶ 区的环境施策は、資源活用（食品ロス対策及び清掃事業、プラスチックの資源回収等）を含め、ゼロカーボンシティ実現に向けた取組として、すべて紐づける

▶ ゼロカーボンに向けた地域での取組を支援し、行動変容を促す発信の工夫をする

8.今後の検討事項と削減効果の見込

検討事項	年間削減量見込量 (単位：CO ₂ eq2)
(1) 都の施策との連動 都：新築建物への取組を強化（太陽光発電設備設置義務化を検討等） 区：既存住宅へのアプローチ強化	2,495 t
(2) 資源活用をゼロカーボンに向けた取り組みとする 食品ロス削減への取組	112t
廃プラスチック分別収集・再資源化への取組	303t (本格実施：2,854t)
(3) 情報発信の強化 ① 地域の取組事例を紹介・支援し、発信する ② 区民の行動様式を意識し、ナッジを取り入れたホームページの改修	1,531t
※ 千葉大学及び民間事業者との連携事業（雨水利用/緑化等）	
合計	4,441t (6,992t)

家庭部門二酸化炭素削減 考えられる対策

節電対策 (1年間を通して下記対策を行った場合) 単位：kg

①	冷房の室温は28℃	14.8
②	エアコンの使用時間を1日1時間減らす	9.2
③	フィルターをこまめに掃除する	15.6
④	テレビをつけている時間を1日減らす	8.2
⑤	テレビ画面は明るすぎないように設定する	13.3
⑥	部屋を片付けてから掃除機をかける	2.7
⑦	モップや雑巾を使って掃除機をかける時間を減らす	8
⑧	パソコンを使う時間を1日減らす(ノート)	2.7
⑨	パソコンの電源オプションの見直し	6.2
⑩	エアコンの室温を20℃(暖房器具)	26
⑪	暖房器具の使用時間を1日1時間減らす	19.9
⑫	電気カーベットは広さにあった大きさにする	44
⑬	電気カーベットの設定温度は「強」から「中」	91
⑭	照明の使用時間を1日1時間減らす	1.4
⑮	こたつ布団に上掛けとこたつ敷布団を合わせて使う	15.9
⑯	こたつの設定温度を低めにする	24
⑰	冷蔵庫は季節に合わせて設定温度を調節する	30.2
⑱	冷蔵庫にはものを詰め込まない	21.4
⑲	冷蔵庫は無駄な開閉をしない	5.1
⑳	冷蔵庫を開けている時間を短くする	3
㉑	炎が鍋底からはみ出ないようにする	5.2
㉒	炊飯器の長時間保温はせず、使わないときはプラグをぬく	22.4
㉓	電気ポットの長時間保温はしない	52.6
㉔	食器を洗うときは低温に設定する	19.1
㉕	食器洗いのお湯の量を減らす	21
㉖	こまめにシャワーを止める	30.7
㉗	お風呂は間隔をあけずに続けて入る	82.9
㉘	洗濯物はまとめて洗う	14.1
㉙	衣類乾燥機はまとめて使い、回数を減らす	20.5
㉚	衣類乾燥機は、自然乾燥と併用して使う	193
㉛	使わないときは、電気便座のふたを閉める	17.1
㉜	電気便座の設定温度を低くする	12.9
㉝	温水洗浄便座の洗浄温水の温度を低くする	6.7
㉞	ドライヤーの使用時間を1日1分減らす	3.6
㉟	歯磨き中、水を流しっぱなしにしない	2.6
㊱	自宅ウォームビズ・クールビズ	90
合計		957

再生エネルギーの切替

①	自宅の電力を再エネ電力にする	1140
---	----------------	------

- ・【節電対策】を全て・全世界できたら、計算上139,347tの削減はできる。
- ・計算上、区独自で家庭部門二酸化炭素排出量36,000tの削減は可能。
- ・黄色の網掛け→CO₂削減の寄与度が高い
- ・グレーの網掛け→環境省での調査（家庭部門の二酸化炭素排出実態統計調査）により行っていない人が6割以上の対策

省エネルギー設備を入れる(助成金に関連) 単位：kg

①	自宅を断熱リフォーム	120
②	自宅の窓を二重窓に	40
③	自宅に太陽光パネル設置	1,180
④	自宅にエネファームを設置する	1,330
⑤	蓄電池の設置(太陽光を導入していることが前提)	830
⑥	マイカーをで電気自動車に	90
⑦	マイカーをでPHEVに	110
⑧	自宅をライフサイクルカーボンマイナス住宅に	2,050
⑨	自宅をゼロエネルギー住宅に	1,770
⑩	自宅を準ゼロエネルギー住宅に	1,390
⑪	自宅に太陽熱温水器を導入	220
⑫	ヒートポンプによる温水供給	150
⑬	白熱電球をLED電球に交換する	90
⑭	冷蔵庫の買替	107
⑮	テレビの買替	28
⑯	エアコンの買替	64
⑰	ナッジによる省エネ	90
合計		9659

※黄色の網掛けは、墨田区地球温暖化防止設備導入助成制度の対象設備

3R・食品ロス事業 単位：kg

①	食品ロスをゼロに	70
②	ごみの分別処理(プラスチックの分別)	4
③	マイバックを持参する	1
④	マイボトルを持参する	4
⑤	衣類の消費量を1/4程度にした場合	194
合計		79

移動 単位：kg

①	ライドシェアリング	190
②	カーシェアリング	90
③	自動車・バイクから自転車・徒歩にする	217
④	シェアサイクルを使う	
⑤	エコドライブを行う	50
⑥	通勤・通学を公共交通機関で	100
⑦	テレワークの実施	170

雨水 単位：kg

①	雨水タンクの設置	測定難
---	----------	-----

緑化関連 単位：kg

①	ハンギングバスケットを1こつくる	測定難
②	カーボンオフセット(鹿沼市とできたらよい)	測定難
③	屋上緑化を行う	測定難
④	杉の木一本の1年間CO ₂ 吸収量	14
⑤	植林(1本)	0.8

【出典】
東京都：家庭の省エネハンドブック2021
<https://www.tokyo-co2down.jp/jigyo/home/handbook/handbook2021>
国立研究開発法人国立環境研究所
「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢カーボンフットプリントと削減効果データブック」
<https://lifestyle.nies.go.jp/index.html>
環境省：ゼロカーボンアクション30
<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/>
環境省：令和2年度家庭部門の二酸化炭素排出実態統計調査
<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg/kateico2tokei/r2co2.html>

ゼロカーボンシティに向けた取組について（ロードマップ）

